

まちカフェで特に印象に残った場面を、

担当のまちセンレポーター・飯田がピックアップ、お伝えするコーナーです。

トイレに立たない！

予定時間を押しての休憩時間だったのに、全員席を離れず水島さんとの議論が続きました。少しの時間も惜しんで

色んな話を聞き出した！という参加者の熱意が伝わり、まちセンにとつて嬉しい、印象に残った場面です。

「洗濯物は、景観を損なう？」



まちカフェの場でこんな一言が出ました。洗濯物は「生活の風景」か「だらしない」とみるか？。モノの捉え方は人さまざまですが、4年間ドイツに住んでいた私にとつて、この観点はとても面白い文化の差だと感じました。はじめじめした季節の多い日本の場合、布団や洗濯物は太陽が顔を出すといっせいに表に出されます。でもこの光景、ドイツではほとんどみられません。季節や天気で様変わりする日本の光景とそれを愛でる心―私はよくドイツで恋しく思ったものです。街の景観を条例で規定すれば、整

然とした街を保つことはできるけれど、下手をすると風情の乏しい街になってしまうのかもしれない。

水島さんはこう答えます。

「無神経や中途半端なのがいちばんいけない。いいと思つてやっているなら自信をもってやればいい」



と。模倣ではなく日本らしいまちづくりをしていくためには、日本のここが好きだ！と思うところを再認識して、大切に守っていくことから始まるのかもしれないね。

アンケートから



まちづくりカフェ1回目、みなさんは水島さんのお話を聞いてどんな感想をいただいたのでしょうか。少しここで紹介します。

まちづくりカフェ話題提供者の話を聞いて、参加者で意見交換をするスタイルについて、「参加者の方のいろいろな意見や視点を面白く聞かせて頂いた」「気楽に参加できるのがいい」「発想転換頭をゴツンとされた気がしました」といった内容や「話や回答がきびしいところがよい」「始めは水島先生が近づきたい印象でしたが、実はとってもユーモアがあり素敵だった」など、水島さんならではの感想もたくさん寄せられました。今後のまちづくりカフェについて、「休憩中にBGMなど流してみてもいいかがでしょうか?」といったご意見もいただきました。今後の参考にさせていただきます。みなさんありがとうございます！

番外編

これがフアンリテーショングラフィックというものか！

今回、まちづくりカフェで、みなさんのお話を模造紙に書き込みました。私にとつて初めての体験です。次々に流れていく言葉を文字や絵で落としていく作業を何度も目にしてきましたが、書く側に立ってみると四苦八苦。話の展開が読めない、漢字を忘れた、などもたもたしているうちに、話の粒をこぼしてしまおうのです。どんなことを話したのか振り返るとはもちろん、自分が話したことが、正しく相手に伝わっているかを確認したり、お互いを理解するために一役買われるこの作業。疎かにはできません。

カフェ終了後に、フアンリテーショングラフィックの助言をベテランさんから受けたり、参考本を読んだり次のまちカフェに向けて勉強に励んでおります。

でも何といても、水島さんとみなさんの激論を、大きな紙の上で手を動かして追いかけていくのは、臨場感あふれる楽しいものでした。(終)